

令和4年度 【 学園研究費助成金< A > 】研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ ヒロセ マサヒロ
氏名 広瀬正浩

研究期間 令和4年度

研究課題名 デジタル化を利用した古典籍などによる図書館の活性化と新しい国語教育の方法論、教育法の確立と展示会（梶山歴史文化館）

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	広瀬正浩	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者	伊藤信博	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者	飯塚恵理人（他三人）	文化情報学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等（200字～300字程度で記述）

研究の目的は文学教育、国語教育や図書館のあり方を問い、学生に親しまれるための実践を試みることにある。先ず、図書館所蔵江戸版本のデジタル化を行い（一部は既にデジタル化済）、現代語訳（音声を含む）と共に版本やビデオを公開し、ゼミ学生が（研究代表者、伊藤、村井）月一回の公開講座を図書館内で開催。さらに、室町時代物語の英語訳（ちりめん本・図書館蔵）などの解説会も実行する。また、後期には歴史文化館で「御伽草子」の絵巻、奈良絵本展示会、解説会、絵解きの会を開催（同時にビデオ収録）、版本使用の和紙講習会参加などにより、新たな日本文学、表現教育の実践的方法論、図書館のあり方を模索する。そのため、外部からも講師を招聘し、討論会や講演会を行い、魅力ある図書館、現代的な古典教育を探る。

2. 研究の推進方策（300字程度で記述）

- ①図書館蔵江戸版本デジタル化（100冊まで実施。国文学研究資料館でも紹介化実行）。
- ②明治期の英語版ちりめん本（御伽草子など）の学生への公開と解説会や朗読会（ゼミ生主導）の実施（前期・後期、図書館内）。
- ③歴史文化館での「御伽草子」絵巻・奈良絵本の展示会・解説会（後期）とビデオ公開。
- ④慶應義塾大学石川透、佐々木孝浩などの招聘（中世近世文学史授業などやビデオ公開）。
- ⑤デジタル化済みの江戸版本解説会（ゼミ生主導・図書館内）と長野県西光寺絵解き会（中世文芸と芸能の関りの説明会の実施し、文学・文芸と芸能の在り方を知らしめる）。
- ⑥和紙の歴史や版本に使用される和紙をよりよく知るために美濃市への研修の実施など。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

①江戸の版本デジタル化は写真までは撮ったが、デジタル化は少し遅れ、令和5年度の5月までには完成予定である。

②は「昔話とちりめん本」として、後期に図書館で展示会を行い、大変好評であった。

③も「室町時代物語と昔話」題して、歴史文化館で展示会と解説会（伊藤、高橋亨名古屋大学名誉教授、石川徹慶応義塾大学教授）を行い、本学学生、東海地区の大学院生も参加し、好評であった。

④については、今回は発表者の都合で招聘せず、中世近世文学史授業で昨年度のビデオを流し、室町時代物語について、伊藤が解説を行った。

⑤も同様に、伊藤が解説を行い、古典への興味を誘う授業を行った。また、西光寺絵解き会を行い、学生から高い評価を得た。この点についても古典と芸能、語りの文芸について、さらに能・狂言、歌舞伎などへの教育的理解が深まったと感じている。

⑥古典文学への理解において、紙や筆などの道具、さらに印刷技術の発展から生まれる版本、識字率の向上が相まって、文学作品が誕生するなどの相乗効果への意識が重要であり、過去の文化と思いがちであるが、現在にもつながっていることを意識させるような研修を美濃市で行い、三十名以上の学生が参加し、毎年継続して行うこととなった。

この研究からは、なぜ古典を学ぶ意義があるのかを文化的要素を絡めて、多くの学生に知らしめる効果があったと考えている。また、この研究からは科学研究費基盤研究(A)「表装文様を中心とした日欧比較による写本・版本研究と国際的写本研究の基盤形成」(研究代表者伊藤)などの申請も生まれた。また、国語教育・日本文学研究を基盤とした「読書論」、文学テクストを読みあげる音声、文学作品の音声化テクストを受容する読者の経験や、黙読あるいは音読する際の読者の経験について、分析美学的な観点からの考察・検証も行われたことが成果となっている。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①版本	②絵写本	③展示会	④絵解き
⑤読書論	⑥音読	⑦日本文学	⑧日本文化

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果：

伊藤信博のウェブページ (<http://nobu.chicappa.jp/>) にて公開の予定。

今後の展望：

- ①科学研究費基盤研究(A)「表装文様を中心とした日欧比較による写本・版本研究と国際的写本研究の基盤形成」の申請
- ②来年度の科学研究費助成(上記①以外のもの)への申請

昔話とちりめん本



9/28(水)~12/23(金)

会場：相山女学園大学図書館

主催：国際コミュニケーション学部 広瀬正浩
伊藤信博

連絡先：伊藤信博(ito-h@sugiyama-u.ac.jp)

室町時代物語と 昔話



9/28 (水) ~ 12/23 (金)

会場：相山女学園歴史文化館(大学図書館4F)

毎週水曜日・金曜日 10:00-17:00

主催：国際コミュニケーション学部 広瀬正浩 伊藤信博

連絡先：伊藤信博(ito-h@sugiyama-u.ac.jp)